

全地帯に集落を移動したサモアのピア、熱帯性気圧「パム」が直撃したバヌアツのポートヴィラが具体的事例として挙げられました。

気候変動というグローバル問題の再認識と、アジア太平洋地域における国連ハビタットの活動の一端を垣間見れた有意義な講演会でした。(山前隆)



## 国連ハビタット福岡本部を囲むタベ

6月12日国連ハビタット福岡本部を囲むタベ(国連ハビタット福岡本部協力委員会懇談会)が、福岡県知事公舎で行われ、市民の会からは8人が出席致しました。

出席された方は、国連ハビタット福岡本部の方々を中心に、日本ハビタット協会会長の中村徹氏、日本ハビタット協会副会長のマリ・クリスティーン氏、他にも、九電産業株式会社の津上賢治氏や、小川県知事、貞刈副市長など国連ハビタット福岡本部を支援する方々が揃いました。

それぞれ歓談を行い、市民の会と協力委員会の方々との交流が行われました。

九州で唯一の国連機関である「国連ハビタット福岡本部」は九州の誇りであり、また九州のさまざまな企業や行政の支援の元にあると改めて思いました。(前田直樹)



## 編集後記

45号の発行が遅れてしまいまして、楽しみにしておられた方にはご迷惑をおかけいたしました。夏の暑さは段々と感じなくなり、秋らしい気候になって過ごしやすいつきにきたのかなと思います。季節の移り変わりですので、体調にはお気を付けて頂ければと存じます。なお、初めてニュースレターの編集をさせていただき、苦労もありましたが、同時に多くのことを学ばせて頂きました。皆様へ情報をお届けして、多くの人を知って頂けることが、本当にうれしく思います。今後も、宜しくお願い致します。(前田)

## ハビタット支援コンサート

今年で27回目を迎えるニューヨーク・シンホニック・アンサンブルの日本ツアー2015の公演が去る7月15日にアクロス福岡のシンフォニーホールで開催されました。アジア太平洋こども会議・国連ハビタット福岡本部を支援するコンサートとしてパナソニックが毎年主催しています。

超満員の会場で2時間半、夫婦に至福の時を過ごすことができました。選抜された名曲のショパン、モーツァルト等の曲をうっとりさせる甘美な音色で演奏され、とても気持ちが良かった。一番印象に残った曲は、モーツァルトの交響曲第40番ト短調で、有名な感傷的な旋律で均整の取れた美しい演奏でした。

アンコールも3曲演奏して頂きましたが、最後は恒例のエルガーの威風堂々で締めくくりました。感動で最後まで大きな拍手が鳴り続けました。来年も楽しみです。(佐竹芳郎)



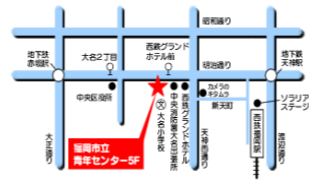
## 今後のスケジュール

- 10月1日(木) 第28回ハビタットひろば
- 10月4日(日) ハートフルフェスタ
- 10月5日(月) ハビタットイベント
- 10月14日(水) 定例会
- 11月14日(土) 15日(日) 国際協力フェスタ「地球市民どんたく2015」出展

☆日程は、変更になることがあります。

直前に、Facebookやメールでお知らせします。

☆定例会の会場は、原則として福岡市NPOボランティア交流センター「あすみん」(右図)で行います。参加お待ちしております。



## 事務局・お問い合わせは

郵便物のあて先は：  
〒838-0134 小郡市下西鰐坂 1493 牟田慎一郎宛  
お問い合わせは：  
TEL：090-6770-2481(牟田)  
FAX：0942-41-2080  
E-mail：muta@ktarn.or.jp  
Facebook：ハビタット福岡市民の会  
HomePage：http://cnhf.web.fc2.com



### 45号の主な内容

- 市民の会主催シンポジウム「若者よ国連を目指せ！」
- ハビタットひろば
- 国連ハビタット福岡本部を囲むタベ
- ハビタット支援コンサート
- 今後のスケジュール

第 45号  
http://cnhf.web.fc2.com

## 若者よ国連をめざせ！～国際機関で働くためには～



7月19日ハビタット福岡市民の会主催「若者よ国連を目指せ！～国連(国際機関)で働くためには～」を開催いたしました。国連機関に興味のある学生を始め、のべ70名の参加がありました。

まず初めに、ハビタット福岡市民の会代表の牟田慎一郎さんが、国連ハビタットの紹介とハビタット市民の会の活動についてお話しされました。

内容としては、ハビタットの意味、世界の拠点、支援団体、そして、市民の会の活動内容についてお話しされました。最後に、参加者皆様へ向けて会員参加へのお声かけで締めくくりました。

牟田さんによるハビタットの紹介のあと、第一部の深澤本部長による基調講演が行われました。

国連ハビタットの紹介から、ハビタットで働く事になった経緯、そして助言などをおっしゃって頂きました。

国連ハビタットの設立のきっかけは1976年にバンクーバーで行われた「人間居住に関するバンクーバー宣言」でした。当時、世界の様々なところでスラムの問題があり、暮らしや住まいに関わる事はグローバルの問題じゃないか考えるようになりました。これを機に、国連ハビタットが創られました。各国歩調を合わせて住まいや暮らしを改善させて、世界でスラムをなくしていくことが大きな役割でした。

講演では他にも、国連の役割、福岡本部の強み、人口増加に関する課題などお話しされたうえ、2016年のキトで開催される世界の居住の方向性を決める会議についても触れました。その後深澤本部長の経歴についてお話しされました。

最初に社会人として入ったのは国土庁でした。当時、国連で働くとはぜんぜん思いもなかったそうです。建設会社にも採用されたが、役所に入ると道路を作るのも大事で決めるのもいいと思い国土庁で働く事を決めました。しかし、87年になると国土計画屋の仕事が沈静化し悶々とした時期がありました。その後、3年くらいしたらアフリカに行く機会があり、国連へ派遣することになりました。英語もあり苦労したが、3年間学ぶことは多かったそうです。今考えると、この進路が(現在国連で働く事になった)相当部分決めたと考えているそうです。そして、役所に帰ると、長官官房、いわゆる総務部に値するところで、役所の根幹部分に携わることになりました。ここでは、組織をどう動かすか。非常に勉強になったそうです。

神戸で港作り。その後ジュネーブの国連に派遣。そして、神戸の震災復興に携わり、震災の博物館の副館長を歴任。館長は大学の先生だったので、実質館長の仕事をしたそうです。そして、2012年に福岡本部からお誘いがあり、今に至るそうです。



そして、過去の経験を踏まえて、深澤本部長から若い人へ向けて助言を頂きました。以下の通りです。

- 目標を見据えて、自分の履歴は自分で作る。

うそは言ったらいえないけれど、5年後の自分の履歴書を考えて、目の前の仕事に取り組むようにする。それで一生懸命やっていったほうがいい。

- 制度や機構を使う（使われない）

役人だったので、いかに制度を上手に使っていくかでした。国連ははるかに官僚的で大きな組織。その感覚は磨いておかなければ使われてしまう。心がけることです。

- Make things happen

世界では、喋るのは得意で、行動しない人が多いです。しかし、日本人は喋るのは下手だけど、やり遂げる人が多い人種だと思われています。日本人は世界から見て、尊敬されており、やり遂げることは得意なことだと思います。

- 自分（や他人）が得意なことと下手なことの見極め

やりたいことややるべきことと、自分はできないことを自覚をすることです。出来なくても頑張らないといけない場面はあるが、できることを一生懸命やったほうがいいです。逃げてはダメだが、自覚しないと同じ力でもっとできることがあるのに、少ししかできないことをしてしまう。

- 最も基本的な原理原則は何か（Integrity, 困難な状況におかれている人々…）

自分の行動を律している原理原則は何か。ちゃんとしなきゃという Integrity を大事にしたほうがいい。困難な状況におかれている人々をどう助けるか、そこが大事。

- いつも機嫌よく（人と情報がよってくる）

すぐ怒る人は逃げていく。僕は怒ってばっかしでいつも反省するがいつも機嫌よくしたほうがいい。機嫌よくすると、人も集まり、情報も集まってくる。

- 周囲の状況と、自らのポジションの把握、適時、適切な行動とモノ言い

ある種の政治的な感覚。実社会、自分だけで成り立っているわけではなくて、いろんな人がいて、いろんなことを思いながら、自分が成り立っている。善意なひとだけでもなく、悪意のある人だけでなく、ある日同じ人が味方をするこも、反対に回ることもある。国連はそこが長けているひとがおおい。把握しておかないと、間違った判断をすることがある。等をおっしゃいました。



第二部は、国連ハビタット福岡本部本部長補佐官の星野幸代氏、UNICEF 東京事務所エグゼクティブ・アシスタントの岩橋美智子氏、UNICEF グアテマラ事務所 JPO の福田由紀氏をゲストにお招きし（福田由紀氏とは現地ですカイク中継をし）、パネルディスカッション「私はこうして国連職員（国際機関職員）になった」が行われました。なお、コーディネーターは、市民の会事務局次長の江藤美紗さんが行いました。

質問と、それに関する答えは下記の通りです。

- ① 国連職員になるまでの経緯や、国連を目指したきっかけについて教えてください



- 星野幸代氏 民間企業で働いた期間が長く、国連機関はたった 10 年ほどです。途上国を支援する仕事のきっかけになったのは、阪神大震災でした。あのころの震災は都市災害でした。都市災害は、災害弱者がいて復興の速度は経済的、社会的状況により異なることに気づいたのです。それが、途上国ではもっと如実に表れると気付いたのです。これを機に大学院へ進学し、国連に入ることになりました。

- 岩橋美智子氏 国連を目指し始めたきっかけは家族の影響が大きいです。私には身体が弱い姉がいて、子どもの頃はよく病院へ一緒に行きました。そこで、小児科で様々な子どもと触れ合ったのですが、触れ合う中で健康は当たり前でないと気付いたのです。小学校に入学すると、親が姉を気遣い、差別や偏見などを受ける事を申し訳ないという気持ちでいたと思います。

- 福田由紀氏 西南学院大学で、国際人権法を学んだのですが、条約にはとてもきれいなことを書かれています。特に子供の権利条約では、世界中の子供たちは教育を受けて、健康的な生活ができる権利があると書かれています。しかし、実際は違うというのに気づきました。また、同時にこの矛盾にも腹が立ちました。そのようなことがあり、国際協力の道を目指すようになりました。

- 星野幸代氏 神戸大学大学院で都市政策を勉強しました。当時震災が起きたとき、神戸市に国際機関がいくつも兵庫に事務所を置いてました。そのときに、国連のひとつにアルバイトみたいなことをして業務を行いました。当時、アメリカの証券会社で働いていたので、英語で仕事したし多国籍の人たちの中で働くのはは慣れていたと思っていたのです。しかし、国連の英語はビジネス英語とは違っており、ビジネス英語で使わない言い回しがいくつもあったのです。そして、これを使いこなすのが国連なんだろうなと思いました。かなり時間がかりましたし、苦労しました。通じればいいわけではなく、多国籍、多文化、異なる宗教、実情すべてに配慮したらこういう言い回しになるのかなと今はわかるけれど、当時は難解でした。

- 岩橋美智子氏 社会人を経験した後、大学院に留学しました。専門は教育と国際開発でありましたが、私自身フィールドの経験は少なかったのです。しかし、周りは途上国へのフィールドの経験が多いうえ、ほとんどがネイティブ

スピーカーでした。その中で、英語でのディスカッションで自分の意見を言って相手に認めてもらう機会がありましたが、認めてもらえるよう努力したり、苦しい思いや、もどかしい気持ちがありました。しかし、苦しい状況でもクラスメートの人たちや、自分の友人から支えてくれました。挫折はあっても、夢や自分の思いを支えてくれる人がいたのは大きかったです。

- 福田由紀氏 青年海外協力隊では南米のポリビアでかつどうすることになったので、スペイン語を勉強することになりました。たまたま、スペイン語は国連の公用語でした。なので、強みは国連に入る前からスペイン語を勉強していたことと、フィールドを経験（大学の時に海外へボランティアをしたこと）だと思います。

- 岩橋美智子氏 挫折は、JPO の試験に3回落ちたことです。採用よりも、不採用になる確率が多いのが JPO 試験です。落とされることに、いちいち囚われずにひきずらない気持ちが大切なんだと思います。



- ③ 若い人へのアドバイス

- 国際機関に見合う自分の適正、専門性、方向性というものは学生にとってはどの様に見つけていけばよいですか。また、国際機関を目指すには学生時代には何をしておくべきですか。

- 星野幸代氏 基本、アドバイスはないです。何故かという、国連職員は 100 人いれば、いきついた経緯は 100 通りあるからです。王道はないですし、きっかけも通ってきた経緯は違う。だからこそ、誰だってなれると思います。

- 岩橋美智子氏 唯一大事だと思うのは、国連機関で働きたいという関心の原点はなにかしらあるはずで、その関心の芽みみたいなものを、ずっと持ち続ける事だと思います。また、大学ですぐに働くということではなく、社会人経験を経てはいる人がほとんどです。ということは、社会人としてどういう経験を得るか、どういう気持ちを持ち続けるかだと思います。少しでも国連にいきたいと思うなら、そういう勉強を怠らないということが、近道ではないけれど、そこに到達する道ではないかと思っています。

- 福田由紀氏 思いがあれば夢はかなうと思ってます。また、学生のうちに何をしたらいいかというのは特になくて、自分の強みを伸ばすことを大事にした方がいいとも思います。強みは人それぞれ違います。そのために、途上国にいくとか、インターンを経験するとかして、一つに絞らずに関心があるところで、自分の力を伸ばせる経験を積むという事をしてほしいです。

- 岩橋美智子氏 興味があるもの、好きなものなんでもいいのでとことん追及することです。パソコン好きなら、勉強して IT のスペシャリストになろうとか。興味があるもの、好きなものを追求していくことが大事です。

- 福田由紀氏 趣味の範囲内で、勉強以外で好きな事をする。趣味なのに、プロ並みな人がいます。例えば、すごくうまい歌を歌ったり、上手くギターを弾いたり、プロ並みなサッカー

をしたり。きちんとバランスが取れるよう、勉強と違うものを追求したらいいと思う。勉強ばかりしないでください。

様々な質問に対し、皆様分かりやすく丁寧にお答えして頂きました。国連とはどういう組織で、どんな仕事をするのか、具体的な話も交えてお答えして頂いたことで、参加した方は一層興味を持ったことかと思えます。また、福田由紀さんにつきましては、グアテマラからスカイク中継を行いましたして無事終わらせることが出来ました。

お忙しい中対応してくださった星野幸代様。わざわざ、東京からお越しくださいました岩橋美智子様。そして、現地では深夜にも拘わらずお引き受け下さいました福田由紀さん、誠にありがとうございました。（前田直樹）



## ■ハビタットひろば

●第 26 回  
気候変動に関する国連ハビタットの取組

6 月 1 日アクロス福岡 3 階くさいひろばにて第 26 回ハビタットひろば「気候変動に関する国連ハビタットの取組」が講演されました。講演者は国連ハビタット福岡本部の元職員で現在環境マネジメントを学んでいる福岡市出身のヒラリー・テイラーさんでした。

講演の導入部では長い年月にわたる大気の総合的な状態の移り変わりである気候変動の定義、測定基準、主な温室効果ガス排出源の説明をされました。

都市部はエネルギー消費量が多いため温室効果ガスの排出量も多く、都市化と一人当たりの二酸化炭素排出量も密接に関係しています。

- ① 都市は適切なインフラ施設が不足していることや生態系の劣化が著しいことが多いため気候変動の影響を受けやすい

- ② 都市は海や川の沿岸部など気候変動の影響の受けやすい地帯に展開することが多い

- ③ 都市は人口が多いため災害のインパクトが大きい

- ④ 気候変動は農村から都市への人口移動の原因となること の4項目を国連ハビタットが気候変動に取組む理由として挙げられました。

また政策アドボカシー・ツール開発・機関の強化・都市の能力向上サポートの4つのフォーカスからなる、開発途上国諸都市における気候変動への緩和・適応能力向上を目標とした国連ハビタットのグローバル事業である気候変動に対する都市の取組 (COCI) の説明もおこなわれました。アジア太平洋地域諸都市の脆弱性査定、温室効果ガス排出量監査、地元レベルの行動計画、国家レベルの政策サポートが紹介され、マングループの苗床を行ったフィジーのラム、洪水対策として排水溝設置したソロモン諸島のホニアラ、海面上昇と高潮の影響を受けやすく海岸保全が必要となったパプアニューギニアのポートモレスビー、安